

佐賀小学校
 子どもたちに『学びに向かう力』を育てたい
 校長 陸野 高俊

◆はじめに

本校は、「夢や志をもち、たくましく生きる児童の育成」を学校の教育目標とし、今年度は、児童数88人、教職員数19人で教育活動を行っています。

めざす児童像
 お…おもいやる子が…がんばる子
 た…たくましい子
 ま…まなぶ子

旧佐賀町の町木「おがたま」にちなんだものです。長年に渡って大切に受け継がれてきています。これまでの人権教育を柱とする取組の中で、やさしさや思いやりの心(おもいやる子)が育ってきている子どもたちですが、近年、課題となっているのは、「まなぶ子」にかかわる子どもたちの姿です。

◆「まなぶ子」の状況(学力)と学びの5階層

下の表は、4月に実施した標準学力調査の結果です(6年生は全国学力・学習状況調査を実施)。

標準学力調査結果 (全国を1とする)

	2年	3年	4年	5年
国語	0.96	0.97	0.87	0.91
算数	1.02	0.97	0.94	0.94

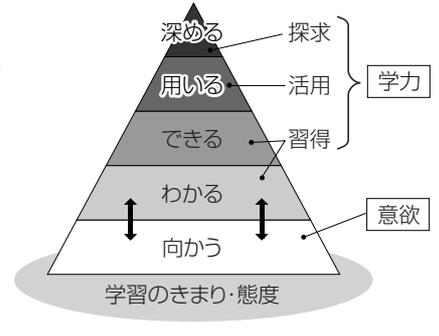
※多くの学年・教科で全国平均を下回っている。

明るく、人懐っこく、また、男女の区別なく仲良く活動する子どもたちですが、人の話を聴いたり、自分の考えを表現したりする力の弱さが、保小・中に共通する課題としてあります。思考力や表現力、粘り強く最後まで頑張りきる力など、子どもたちが本来持っている力や学力を十分に伸ばしきれていない、「まなぶ子」まで高めることができていないという現実の1つの表れが、右の調査結果です。

私は、課題克服の鍵は、「学ぶ態度や学びへの意欲(学びに向かう力)」の高まりであると考えています。

学力は、学びに向かう力と、それを支える学びの態度(学校や学習のきまりを守る、人の話を最後まで聴く、友だちと協力するなど)を土台とし

学びの5階層



て築かれるものです。その土台が弱ければ、習得・活用・探究の学力を積み上げることが難しくなります。本校に求められているのは、土台もしっかりさせつつ、学力を確実に積み上げていく取組です。

◆「まなぶ子」(学力向上)を目標として

これまで2年間取り組んできたユニバーサル・デザイン(どの子もわかる・できる)の授業づくりを引き継ぎながら、これからの子どもたちに求められる資質・能力の育成を踏まえて、今年度の研究主題を「よく聞き、自ら考え、伝え合える子どもを育てる」主体的・協働的に学ぶ授業づくりを通して」として、算数科を中心に研究を進めています。大切な土台については、子どもたちに生活をしっかりとすること(当たり前前のことを当

たり前にできるようになる)、学習のきまりを守ること、態度をしっかりとすることを日々求め、評価し続けていきます。その中で、トイレのスリッパの整頓や生活朝礼などでの話の聴き方が向上したり、地域の方からあいさつへの評価がいただけるようになり、また、落ち着いた雰囲気学べるようになってきています。



授業では、研究主題を具現化すべく、学習課題の設定や友だちとの対話の方法、学習の振り返りの方法などの研究を進め、「先生、この問題解いてみたい!」「次は○○についてみんな考えてたい」などの言葉が子どもから生まれてくるような授業を目指していきたく思います。そして、学びへの意欲「学びに向かう力」をすべての子どもに育てていきたいと考えています。

◆地域に貢献する学習で意欲を高める

毎年7月に行われている「三世代ふれあい健診」に4・6年生が半日ずつ参加します。子どもたちにとっては、地域をフィールドにした貴重な体験学習の場でもあります。「説明の時から真剣に話を聞き、検査の時も大人の出る幕がないほど、高齢者への説明や検査をしっかりやってくれました。一生懸命自分の役割を果たそうとしていました」担当の方からこのような評価をいただきました。周りの大人から当てにされ、認められ、子どもたちも有意義な時間を過ごしたことでしょう。学校とはまた違った姿がありました。このような学びを大切にしたいと思います。社会科や生活科、総合的な学習の時間などにおいて、地域や地域の人々に役に立つ・貢献する活動を通して、学びへの意欲をさらに高めていきたいと考えています。



三浦小学校

『コミュニティ・スクール』の力で「三浦小ならではの教育をつくる」

校長 布 正人

◆はじめに

三浦小学校では、学校教育目標を「かしこく やさしく たくましい 三浦っ子の育成」とし、めざす児童像を「進んで学ぶ子・心豊かでたくましい子・地域が大好きな子」として、全校54人の児童と14人の教職員で歩みを進めているところです。

そして、今年度は「コミュニティ・スクール」として認定を受けた1年目になります。

もともと三浦小学校は地域とのつながりの強い学校です。その強みを生かし、「コミュニティ・スクール」の力で、めざす児童像を実現するための授業づくり(体験学習など)を豊かに展開できる学校を作ります。

それでは、今年度の教育活動の一端をご紹介します。

◆学力向上

① 授業改善

○学び合える学級づくりには、なんとといっても授業改善が

欠かせません。授業を通して共感的な人間関係を育みます。

学ぶ意欲を感じ、思考を深め、伝え合う場面のある授業づくりを進めています。

② 読むことの充実

いろいろな場面で読むことの充実を図っています。(NIEへの取組・ICTの効果的な活用・テレビ会議の活用・ペア読書・読書ボランティアの活用など)

③ 基礎学力の定着

組織的な加力学習の工夫・学力検査の活用・家庭学習の充実を進め、「忘れた頃に繰り返す」を徹底します。



6年生研究授業

平成28年度標準学力調査結果

(全国を1とする)

	2年	3年	4年	5年
国語	0.89	1.02	0.89	0.91
算数	0.98	1.16	0.99	0.96

4月に行われた標準学力調査の結果です。(昨年度の内容の定着度検査)全国平均より少し低い結果です。特に2年生の国語、4年生の国語が弱いという結果になっています。この結果を受けて、今年度は「家庭学習の徹底」「読むことの徹底」「帯タイム・放課後加力の充実」を「安心して学べる学級作り」を土台に徹底して取り組んでいます。

◆絆づくり・仲間づくり

① 心の教育の充実

あいさつ朝会・ありがとう朝会・がんばった朝会・縦割り班活動(作業を大切に)・児童会を中心とした活動(みんなで遊ぶ日) 全校の心のつながりや上級生の活躍する場面をつくり、全校の絆づくりや上級

生を育てる取組を進めています。

② 豊かな体験活動と交流活動の推進による人づくり(コミュニティ・スクールの認定を活用して)

地域の人・もの・こと「産業・文化」の活用により、地域を誇りに思い地域が大好きな児童の育成・「生きる力」を体感する場としての体験学習「生華園との交流(稲づくり・夏祭り・餅つき)」・「防災参観日」・「三世代交流」・「11月・みうら学びの月」の取組(家庭のルールづくり、家読の日)など、コミュニティ・スクールの力で、「三浦ならではの」活動を計画・実践していきます。



地域の方による読書ボランティア

◆健康・安全・体力づくり

毎日の徒歩通学・朝運動・外遊びの奨励・基本的生活習慣の確立・防災教育の充実に取り組んでいます。

雨の日も風の日も徒歩通学をする子どもたちに頭が下がります。参観日にも保護者の帰りを待つことなく、徒歩で帰ります。2時間目と3時間目の間の休み時間には元気に外で遊ぶ子どもたち、昼休みにはみんな遊ぶ日も計画されます。

防災教育に関しては、さまざまな場面を想定し、年間10回以上の避難訓練を実施し、本年度は防災参観日も予定しています。その中で、生きた防災教育を進めていきます。



遠足での避難訓練

※学校ホームページも随時更新中です。